

平成 29 年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

地域に根ざした総合学科高校として、多様な人々がともに生きる社会の形成者を育成する学校をめざす。

- 1 総合学科の特性を活かし、多様な生徒の多様な学びと多様な進路実現を保障する。
- 2 人権教育を軸にして、主体的に社会に参画し、他者と協働できる資質・能力を育む。
- 3 地域とともに学び、地域の教育力の向上に貢献する。

2 中期的目標

1. 総合学科の特性を活かし、「確かな学力」を育む

(1) 総合学科の特色を生かしたカリキュラムマネジメントの推進

- ア 生徒の学力を把握・分析し、本校の取組みを評価・改善していくシステムを確立する。
 - ・生徒の生活実態、学習状況、進路意識等に関する調査を継続的に実施する。
- イ 学習意欲を高め、「受験対応の学力」と「生涯にわたり学び続ける学習力」を育むカリキュラムを再編する。
 - ・次期学習指導要領の趣旨を踏まえ、多様な科目の内容を一層充実させるとともに、科目どうしの系統性を考慮したカリキュラムを編成する。
 - ・生徒の学びへの意欲向上と学習習慣の確立をめざし、家庭の理解と協力を求めるとともに、幅広く外部人材の活用も進める。

(2) 生徒が安心して安定した高校生活を送るための環境整備

- ア 生徒の支援体制、相談体制を整える。
 - ・SSWの協力を得て生徒を支援できるよう教員体制を整え、具体事例について検討する場を設ける。
 - ・教育相談体制を整備し、不登校や退学を防止する。
- イ 生徒の自律・自立に向けた生活指導・キャリア教育を推進し、将来展望を持って積極的に学ぶ意欲を養う。
 - ・自他を尊重し、社会で通用する規範意識を育む。
 - ・生活背景をふまえた生徒理解をもとに丁寧な生徒指導を行う。

(3) 教職員が自ら学び、専門性を高め、質の高い教育実践を推進する組織づくり

- ア 教員の授業力向上を不断に進めるためのシステムを確立する。
 - ・業務の適正化、効率化を組織的に進め、教員が授業づくりにかける時間を確保する。
 - ・校内授業研究を継続的に実施し、教員の授業力を向上させる。
- イ 計画的な教員研修の実施、教職員の様々な研修への参加、他校との交流を積極的に進める。

2. とともに生きる社会の形成者としての資質、能力を育む

(1) キャリア教育の充実

- ア これからの社会で必要とされる資質・能力を踏まえ、「社会への扉（産業社会と人間、総合的な学習の時間）」及び「課題研究（総合的な学習の時間）」の充実を図る。
 - ・総合学科の学びの柱として、3年間を見通した系統的な学習プランをデザインし、全教員の共通理解のもとに進める。
- イ キャリアガイダンスの拠点としての「インフォメーションルーム」を整備し、本校のガイダンス機能を充実させる。
 - ・学習や進路に関する情報を得られる場として、生徒が積極的に活用できる環境づくりを進める。
 - ・生徒からの相談に応じて適切な支援を行えるよう、教員のスキルを高め、就職率100%を維持し、希望進路決定率95%以上をめざす。

(2) 生徒の自主活動育成

- ア 生徒会・委員会活動をいっそう充実させる。
 - ・生徒が学校づくりに参画していけるような支援体制を整える。
 - ・地域で活動する様々な団体等と連携し、社会にも働きかける活動を行う。
- イ クラブ活動を活性化する。
 - ・生徒のクラブ加入率を高めるための条件整備を進める。
 - ・クラブ顧問の指導力向上、外部人材の活用等により、クラブ指導の充実を図る。

(3) 人権尊重の学校づくり

- ア 人権が尊重される学校文化の確立
 - ・生徒が人権の課題を自分の課題としてとらえ、確かな人権感覚を養う系統性のある学習プランを確立する。
 - ・教職員の人権に関する知識や感性を常にハイレベルで維持し、すべての教育活動を通して、人権教育を行う。
- イ 配慮を要する生徒への支援を全ての分掌・教科・学年等の連携により進める。
 - ・日本語指導が必要な生徒、障がいのある生徒等に対する支援体制を整える。
 - ・配慮を要する生徒が他の生徒との関わり、ともに成長できる集団づくりを進める。

3. 地域と連携・協働し、ともに地域の教育力の向上をめざす

(1) 家庭・中学校・地域との連携強化

ア 保護者の学校教育への理解と参画を促進するとともに、家庭の教育力を高めるための支援を行う。

- ・学校教育目標やその実現に向けた取組みについて保護者に丁寧に説明し、協働して子どもを育成していける信頼関係を構築する。
- ・保護者対象の講演会等を企画し、保護者が子育てに関する情報を得たり、相談をしたりできる機会を作り、家庭の教育力を高められるようにする。

イ 中学校と日常的な情報共有を行い、信頼関係を築き、連携をさらに強化する。

- ・中学校に対して本校の取組みを積極的に発信し、生徒の成長を見守り、支援していただける関係づくりを行う。

(2) 地域の社会教育資源を活かした教育実践の実施

ア 本校の教育活動を積極的に地域に発信し、次代を担う若者の育成についての理解と共感を得る。

- ・本校ホームページでの発信をはじめ、地域の方々に本校をご覧いただく機会を増やし、本校の教育活動への理解を高め、教育のあり方についてともに考えられる関係をつくる。

イ 本校の教育を理解し、参画していただける方を増やす。

- ・「社会への扉」や「課題研究」の取組みをはじめ様々な取り組みにおいて、生徒が地域に出て学ぶ機会を積極的につくり、地域の方々の理解を得るとともに協力を仰ぐ。

(3) 地域との協働を深め、地域の教育力向上に貢献する。

ア 地元中学校区地域教育協議会に参画を通して、学校の教育資源を地域の教育力向上のために活用する。

- ・地域の教育機関との連携を深め、協働して子どもを育む顔の見える関係をつくる。
- ・本校の特色のある授業や施設を地域に開放し、地域の方々の学びの場、活動の場として提供する。

イ 生徒の学習活動の中に、生徒が地域課題を理解し、課題解決の方法を考え行動する取組みを行う。

- ・「社会への扉」の授業や生徒会活動等において、生徒が社会で活動する方々と協働する機会をつくり、生徒の社会参画への意識を育てるとともに、地域の課題解決に寄与する。

【学校教育自己診断の結果と分析・学校協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [平成29年12月実施分]	学校協議会からの意見
<p>1年</p> <ul style="list-style-type: none"> ・74%の生徒が学校に行くのが楽しいと答えている。 ・「先生は親身になって相談に応じてくれる」と回答した割合は一昨年度昨年度より上昇している。一人ひとりを大切にすることを今後も継続したい。 ・84%の生徒が人権教育の取組みについて肯定的回答をしている。さらに学びを進め、人権課題をわが事として捉えられる意識の深まりを図りたい。 ・多くの生徒が地域の方々との交流の機会が乏しいと感じている。もっと積極的な交流の場を設定する必要がある。 ・自分の将来を考えた2年次の科目選択について、肯定的回答が78%であった。学習指導部、ガイダンス部、担任団がうまく協働できた成果である。 ・学ぶ意味の理解や学習に対する取組みについての指標は上昇した。2年次は、基礎学力の定着とともに、得意分野を伸ばす取組み、社会で活用できる力の育成に努める必要がある。 <p>2年</p> <ul style="list-style-type: none"> ・約9割の生徒が、本校を特色のある学校としてとらえている。2年次からの選択科目で総合学科の特色を実感できたと考えられる。 ・9割以上の生徒が人権教育の取組みについて肯定的回答をしている。フィールドワークや講演会など、体験や人との交流が効果を生み出している。 ・学習形態の工夫、改善について、7割以上の生徒が肯定的回答をしているが、なお一層の工夫が必要である。 ・自分の将来をよく考えて科目選択ができた生徒が84%、学ぶ意味を学ぶ意味を十分に理解していると回答した生徒も83%であり、自ら学ぶ生徒を育てる学年の取組みが成果を上げている。次年度も生徒の学ぶ意欲、学力、学習力を一層高める取組みを進めたい。 <p>3年</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「いじめについて先生は真剣に対応してくれる」についての肯定的回答が78%である一方で、「まったくあてはまらない」との回答者が8%いることに注目する必要がある。 ・総合学科で学んでよかったと回答する生徒が78%、選択科目の内容についての肯定的回答が74%、選びたい科目を選べたという生徒が75%、選択科目が進路につながったという生徒が75%であり、4分の3以上の生徒が総合学科の学びについて肯定的回答をしている。 ・総合学科の取組み、自分で考える力や自主性を伸ばすことができたと思う生徒が79%、コミュニケーション能力が身についたという生徒が76%と、総合学科としての学びは概ね充実していたものと考えられる。 	<p>第1回（テーマ：本校が取り組むべき課題）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・一般選抜で八尾北高校を選んで入学してきた生徒から、入学の目的を聞き出すと、八尾北のアピールポイントが明らかになってくるのではないかと。 ・大学進学について、学力向上の支援だけでなく、大学が生徒のどういうところを評価するのか分析して進学指導にあたる必要があるのではないかと。 ・人権の意味を考え、差別事象にもきちっと対応できる教員を育てるためにも、地域に学ぶという意識で関わっていただきたいと思っている。「夢・誇り・絆」を意識し、言葉の軸を大切に教育や取組みを実践しているということを知りて嬉しく思っている。今後も期待している。 <p>第2回（テーマ：地域との連携）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・八尾市では小中学校区ごとのまちづくりに力を入れている。地域として子どもを育てると同時に、学校内での教育が子どもの心を豊かにし、地域の中でも活かされることが良い形だと考えている。八尾北高校は府内全域から生徒が集まってくるが、地域とはどういった範囲を考えているのか。学校の中で地域についての意識が統一されていないと、効果的な策が取れない。 ・生徒の成長のために何をやるかという視点が重要だと考える。どこを地域と見なすかは、目的やニーズに照らして考えるべきではないかと。 ・地域にとってお得な情報や歴史、特徴のある企業についてまとめて発信したり、地域の課題を発掘して解決に向けて動いたりする活動をしてはどうか。 ・八尾北のルーツとして同和問題は避けて通れないところであり、教員が同和問題に触れ、地域と一緒に課題を解決していけるような学校であってほしい。 ・多様な人と協働する力をつける意味でも、地域の方と連携したり、地域に貢献したりする機会を提供することが重要と考える。 <p>第3回（学校経営計画及び校則について）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・目標を達成したイメージを教員がしっかり持つ必要がある。 ・コツコツといろいろなことをやっていることはわかる。それを戦略的にすすめていくように。 ・受験対応の学力をどう位置づけるか、学習力とはどういう学びか、明確に提示していけるよう、学校全体で学びや達成感について考えていく必要がある。 ・指導にも教員の温度差がある。化粧指導に関しては特にそれを感じる。 ・スカートの短さが気になる。化粧指導より先ではないかと。 ・スカートの長さだけを見るのではなく、なぜ短くするのか、さまざまな視点からみることで議論すればおもしろいのではないかと。 ・生徒がプライドを持てるような取組みを進め、そんな中で「知らない間に生徒がよくなっていった」というような仕掛けを生徒自身に考えさせて、行動するような形で考えてもらいたい。 ・現状、アルバイトは禁止であるが、そうではなくて、正しい勤労観や働き方やブラックバイトに搾取されないような教育が必要ではないかと。

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
1. 総合学科の特性を活かし、「確かな学力」を育む	(1) 総合学科の特色を生かしたカリキュラムマネジメントの推進	ア. ガイダンス部と学習指導部の協働により、業者テストも活用しながら、生徒の生活実態、学習状況等の調査、集約、分析を継続的に進めるシステムをつくる。 イ. カリキュラムマネジメント推進委員会(仮)を新たに組織し、カリキュラムの見直しとともに、現状把握、改善、計画、実行のマネジメントサイクルを確立する。	ア. ①生活実態、学習状況等の調査結果の報告書を作成 ②次年度も継続して実施できる体制づくり イ. ①カリキュラムマネジメント推進委員会の開催 ②有識者等によるアドバイスを得て教職員研修会を実施	ア. ①教育産業業者による学力分析結果をもとに作成。(○) ②次年度も継続して実施する体制ができている。(○) イ. ①本年度内に課題とスケジュールの確認を行い、来年度早々に具体的検討を開始できる形を作った。(○) ②大学教授を招いた研修を実施し、総合学科の特長を活かした取組について考える機会をもった。(○)
	(2) 生徒が安心して安定した高校生活を送るための環境整備	ア. 生活指導部保健担当が、対応が必要な生徒について、SSWを活用した生徒対応を進め、その取組を通じて教職員の理解を深め、必要な体制整備を進めていく。 イ. 生活指導部生徒指導担当を中心に、全教職員が一丸となって、生徒の規範意識と自律の精神の高揚を図る取組を行う。	ア. ①課題のある生徒についての情報共有の場にSSWを定期的に招き、対応を検討 ②必要な校内体制の確立 イ. ①遅刻件数3,000件未満(昨年度3,400件超) ②化粧装飾品指導について、生徒保護者への説明、教職員の意思統一のもと、指導件数の3割減	ア. ①SSWを交えた情報共有、具体的課題検討の場を4回開催した。(○) ②生活指導部保健担当を中心とした体制を確立した。(○) イ. ①遅刻件数4,087件(△) ②全教職員による日常的な指導を継続し、徐々に成果が現れている。(○)
	(3) 教職員が自ら学び、専門性を高め、質の高い教育実践を推進する組織づくり	ア. 授業準備や生徒と向き合う時間の確保のために、全ての分掌・担当・学年が業務の適正化・効率化プランを提示し、具体的に進める。 また学習指導部が授業力向上プランを作成し、校内研究授業等の具体的な取組を進める。 イ. 様々な研修機会を有効に活用するとともに、他校の実践収集を積極的に行う。	ア. ①全校一斉退庁の完全実施 ②全教員による相互の授業見学回数2割増(昨年度84回)、授業づくり研修年2回(昨年度1回) イ. 研修報告書作成、報告会開催	ア. ①一斉退庁を実施した。(○) ②授業見学回数92回 電子黒板の活用研修、アクティブラーニングを取り入れた授業の見学、検討会を実施した。(○) イ. 各分掌会議等を活用して随時行った。(○)
2. ともに生きる社会の形成者としての資質、能力を育む	(1) キャリア教育の充実	ア. ガイダンス部社会への扉担当を中心に、探求要素の盛り込み、地域人材の活用、社会への発信強化の3点を重点課題として、課題研究を含めた3年間の学習プランを再編する。 イ. 「インフォメーションルーム」がキャリア研究や科目選択のために多くの生徒に活用されるよう、ガイダンス部は部屋の改装、機能の充実、来室者対応の体制等の環境づくりを行う。	ア. ①「社会への扉」授業資料集の作成 ②各学年「社会への扉」自己診断値を5%上げ(昨年度1年74%、2年75%、3年76%) イ. ①インフォメーションルーム利用拡大 ②教員による支援体制の確立	ア. ①授業資料集を作成し、教員間で共有した。(○) ②「社会への扉」自己診断値1年76%、2年81%、3年76%と上昇し、充実した取組が進められている。(○) イ. ①部屋の改装で使いやすくなり、利用者数は増加している。(○) ②インフォメーションルームを進学希望者向け「セミナー」、就職希望者向け「就職塾」、未定者への面談等を実施する拠点となっている。(○)
	(2) 生徒の自主活動育成	ア. 生活指導部生徒会担当は、学校の課題を生徒が考え、行動し、解決していけるよう、現在の生徒会、委員会活動をさらに充実させる。 イ. 会議の縮減、業務割当ての配慮により、顧問が部活動指導を十分に行える条件を整えとともに、生徒の部活動加入率を高めるための生徒への働きかけ等具体的対策を講じる。	ア. 自己診断の生徒会行事に対する参加意識70%超(昨年度68%) イ. ①学年会議の回数減(昨年度週1回) ②部活動加入率5割超	ア. 自己診断参加意識は70%であった。(○) イ. ①毎週開催から、基本的には隔週開催とするようにした。(○) ②部活動加入率56.5%(○)

	(3) 人権尊重の学校づくり	<p>ア. 人権教育担当は、3年間の人権学習プランを再考するとともに、すべての教育活動が、人権教育の視点に立って行われるように教職員に働きかける。また様々な取組みの情報を収集し、実践者との交流の機会を持つ。</p> <p>イ. 配慮を必要とする生徒について、全教職員が共通理解をもち対応できるよう、学年会議等での情報交換を確実にを行う。</p>	<p>ア.</p> <p>①本校人権教育プランの改定</p> <p>②自己診断の人権の取組みについての意識70%後半の維持</p> <p>イ.</p> <p>支援の具体的状況及び当該生徒の満足度(当該生徒からのヒアリングにより成果を検証)</p>	<p>ア.</p> <p>①人権教育担当者会議において検討し、次年度の方針をまとめた。(○)</p> <p>②人権の取組みの意識については82.8%が肯定的にとらえている。(◎)</p> <p>イ.</p> <p>該当する生徒に対する日常的な支援とともに、適宜ケース会議等を行うなど、きめ細かな支援により、高い満足度を獲得している。(○)</p>
3. 地域と連携・協働し、ともに地域の教育力の向上をめざす	(1) 家庭・中学校・地域との連携強化	<p>ア. ガイダンス部地域連携担当が保護者への積極的な情報提供と保護者対象の講演会の企画等を通して、本校の教育活動への理解と協力を得る。必要に応じて相談機関につなぐなどしながら、家庭の教育力を高められるよう支援する。</p> <p>イ. 生徒の出身中学校と日常的な情報交換を行い、信頼関係を築き、連携して生徒を支援できるようにする。またガイダンス部地域連携担当は本校の教育活動を積極的に発信する。</p>	<p>ア.</p> <p>①保護者に対する情報提供として、本校HPへの掲載や通信の発行(毎月)</p> <p>②保護者向けの研修会の開催</p> <p>イ.</p> <p>①情報交換のための中学校訪問(年2回)及び、日常の連携</p> <p>②保護者対象自己診断の本校HP閲覧について40%超(昨年度26%)</p>	<p>ア.</p> <p>①学校行事や講演会等についてHPで事前通知・結果報告を行った。その他、通信・案内等の郵送(年間3回)、メルマガの配信などを実施した。(○)</p> <p>②保護者対象教育講演会を開催。また保護者向け進学説明会や奨学金説明会を実施した。(○)</p> <p>イ.</p> <p>①中学校訪問(年2回)実施。必要に応じて生徒状況を共有し、連携による生徒支援を行っている。(○)</p> <p>②HP閲覧について25.1%であり、保護者への働きかけとともに、保護者に必要とされる内容の充実を図る必要がある。(△)</p>
	(2) 地域の社会教育資源を活かした教育実践の実施	<p>ア. ガイダンス部地域連携担当は、情報担当と連携し、本校ホームページを充実させるためのシステムづくりを行い、すぐに実行する。また保護者や地域の方々の声を聞ける工夫もする。</p> <p>イ. 「社会への扉」「課題研究」をはじめ、多くの授業や取組みにおいて、生徒が地域の教育資源を活用したり、地域の方を学校に招いたりする機会を増やす。</p>	<p>ア.</p> <p>①本校HPを充実させる体制の構築</p> <p>②授業公開週間に加え、研修会、公開講座等の実施により保護者や地域の方の来校機会・来校者数増</p> <p>イ.</p> <p>地域の教育資源を活用した取組みを、「社会への扉」「課題研究」で各学年ともに年間複数回実施、「総合選択科目」でも複数の科目で実施。</p>	<p>ア.</p> <p>①HPをリニューアルした。情報担当者に情報が集約されるシステムが構築された。(○)</p> <p>②説明会等の実施により、来校機会、来校者数ともに増加している。(○)</p> <p>イ. 地域の方を招いたり、生徒が訪問したりする取組みを実施し、成果を上げた。(○)</p>
	(3) 地域との協働を深め、地域の教育力向上に貢献する。	<p>ア. 人権教育担当を中心に、地域教育協議会に積極的に参画するとともに、保・幼・小・中・高の連携をさらに促進できるよう、顔の見える関係づくりを進めるとともに、本校の特色ある授業や施設を地域の教育力の向上に役立てるため、地域対象の講座を企画する。</p> <p>イ. 1年次「社会への扉」のソーシャルデザインワークにおいて、地域の具体的課題に目を向け、その解決のために地域の方と協働する取組みを加える。</p>	<p>ア.</p> <p>①地域教育協議会への出席回数(昨年6回)、イベント等への積極的関与</p> <p>②地域対象の公開講座開催(昨年なし)</p> <p>イ.</p> <p>現行の取組みを深め、地域と協働する実践(昨年なし)</p>	<p>ア.</p> <p>①地域教育協議会への出席回数6回。今後も地域の教育力を向上させる取組に積極的に関与する。(○)</p> <p>②地域イベントのプログラムに取り込む形で、本校教員による公開講座を実施した。(○)</p> <p>イ.</p> <p>50か所以上の学校、企業、事業所等の協力を得て、生徒が社会との関わりを学ぶ取組みを進めていくことができた。(○)</p>